

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	0671600260		
法人名	社会福祉法人睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地	山形県天童市大字道満176-1		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 5 日	開設年月日	平成 16年 12月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 8月 2日	評価結果決定日	令和 5年 8月 28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から必要とされるグループホーム」を理念に掲げ、事務所に理念を掲示し、職員の意識付けをしている。以前は地域行事に参加したりしていたが、新型コロナウイルス感染症対策の為参加出来ていない状況である。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域行事や地域の方に協力を得ての訓練は行っていない。介護、看護の実習生は例年と変わらず受け入れを行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天童市の認知症カフェ(あったカフェ)にグループホーム協力員として行政と連携し運営スタッフとして参加したり、家族交流会にて認知症への理解と支援の講話内容に努めていたが新型コロナウイルス感染症対策の為中止になっている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、施設での対面開催が出来ていない。書面で入居者の生活の様子や職員の研修等の状況を2ヶ月に1回お知らせしている。説明やご意見は電話で受け付けている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1回の介護相談員の来訪や運営推進会議に市の担当者からも参加して頂き、事業所の実情や取組み等をお伝えしている。新型コロナウイルス感染症対策により文章でのやり取りになっている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束をしない方針で取り組み、尊厳ある暮らしを提供する事について委員会を中心に検討を行っている。日中、玄関の施錠はせずにセンサーチャイムを設置し、外へ出て行く入居者の方へは付き添いし、拘束しない工夫をしている。転倒の危険がある入居者の方には動きが分かる様に鈴や離床センサーを使用する事を家族から了承を頂くと共に、毎月カンファレンスを行い見直しを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンラインでの研修に参加し、研修内容は回覧や会議で報告し、日頃のケアを見つめ直す機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	認知症ケア加算研修で、書面での回覧にはなるが学ぶ機会を持ち、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまで十分な説明を行なっている。利用者や家族の不安、疑問に思う点、要望を聞き納得頂けるようにしている。入居後も相談を随時お受けし、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ年に1回アンケートをお願いし、要望や意見を頂き、改善点を検討している。玄関先にご意見箱や気付いた事を記入するノートを置いている。記入の無い現状ではあるが、直接要望や意見を頂く事も多く、随時対応している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回管理者も同席した主任会議を行い、職員からの意見等を主任、副主任を通し伝えたり相談する事が出来ている。又、常に管理者へ職員が意思や思いを伝えやすく聞き入れられる環境が出来ている。年に1回職員への振り返りのアンケートを実施し、1人1人に管理者からのメッセージがあり、仕事へのやる気に繋がっている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、各職員に合った勤務時間、勤務体制等を考慮している。給与、手当においても勤務状況を考慮したものとなっている。受講したい研修の希望も取り入れており、やりがいのある職場環境作りに努めている。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の情報を主任会議等を通して把握し、研修内容の希望を聞き、施設内で研修を行ったり、外部の研修に参加する機会を作っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、オンラインでの研修が多くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協会の交換実習に参加し、お互いの事業所の良い所を取り入れたり、情報交換等出来たが、新型コロナウイルス感染症対策で交換実習は中止になっている。オンライン研修に参加し、同業者との交流の機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネージャーからの情報や家族・本人と面談し、要望や困っている事等を確認し反映させている。安心して暮らせるように配慮し、信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は本人や家族が不安に感じる事や要望をしっかり聞き、入居してからの生活に活かし、生活の様子等も密に報告している。理解しやすく丁寧な説明で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、環境を考慮し、本人、家族、ケアマネージャーと連携し支援している。必要に合わせNPO法人の洗濯・送迎サービスや認知症デイケア、訪問マッサージや歯科往診・口腔ケア等のサービスに繋げている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体を忘れず、本人の要望を聞き出来る事環境を整えている。家事やレクリエーション等を一緒に行ない、共同生活の関係を築ける様努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に入居者の生活状況をお伝えしている。新型コロナウイルス感染症対策の為、窓越し面会を行っている。毎月発行しているおたよりや玄関先に日常や行事に参加した写真を掲示し、面会制限の中でも生活の様子を見て頂ける様にしている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策により行き慣れた場所へ行く事や対面での面会が出来ていないが、窓越し面会等を通し、人との関わりが途切れない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が穏やかに生活が送れるようにテーブルを配置したり、隣になる方の性格も考慮しながらセッティングをする様にしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の相談にいつでも応えられる様に努めている。又、入院による一時退居時も家族と連絡を取ったり、面会したりサポートしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな生活を送りたいか、やりたい事楽しいと感じる事は何かを普段の会話や聞き取り、介護支援経過表の記録を活用し把握に努めている。思いを伝えられない方は、表情や仕草から思いを汲み取る働きかけをしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での聞き取りや、自宅に行ったり、病院・施設等に電話にて本人、家族、ケアマネージャー、関係者より情報を得るようにしている。入居後は本人との会話を通じ、生活してきた背景を理解出来る様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時、センター方式やアセスメントシートを活用して、一人一人の事を把握出来る様努力している。ユニットノートを活用したり、申し送り等で現状や変化を伝え、職員間で情報の共有を図っている。			
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月毎にケアプランの見直しを行なっている。センター方式を利用してアセスメントを行い、前回の評価やモニタリングを取り入れ、プランに反映させている。ユニット会議や全体会議で職員間の意見も反映されるプラン作りに努めている。			
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプランの内容に沿った記録を行い、特記事項は介護録に記入している。情報を共有する事でどの様に対応した方が良いか、見直しに役立っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望があり、自宅で過ごしたいという希望がある方には、職員と自宅で一緒に作業したりした。コロナ禍で外出の制限がある中、帰宅欲求の強い方に対し、どう対応するべきか考える機会になった。毎日梅干しが食べたいという方には家族に持参して頂き、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。コロナ禍で外出を控えている間に帰宅欲求の強い方が入居された時はどこまで制限すべきか、感染源の持ち出し、持ち込みを考えると、どの対応がベストなのか考える機会があった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、現在外出を行う事が出来ておらず、地域の方との交流も出来ない状況。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もこれまでの医療機関を変更する事無く、1人1人の入居者、家族が希望する医療機関を受診している。身体状況、生活の様子等を情報提供書にまとめ、家族に説明した上で主治医に報告、受診の結果も家族に報告している。必要時は電話にて状態を報告したり、職員の付き添いも行なっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を行っており、定期的に訪問看護師による健康管理のチェックと体調不良時の観察が受けられている。急変時の対応や受診が必要な状態か、適切な指示が得られている。処方薬の変更、状態変化等があれば随時報告している。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時はサマリーを通して情報を交換している。家族や病院からの情報で状態変化と現状の把握をしている。退院時は面談に行き医療連携を図ると共に、退院後の生活がスムーズに出来る様努めている。現在特に病院は対面での面談が出来ず、出来てもzoom等の画面を通してだったりするので、十分な情報収集が出来ない場合もある。その為より細かい部分まで情報収集出来る様確認項目を増やし、グループホームで受け入れできるのか、的確な判断が出来るようにしていくことも課題と言える。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態から本人家族の意向を伺い、かかりつけ医、訪問看護師との協力体制が確保された支援方針を決めている。年に一度家族との面談を行い、今後の意向を聞く機会を持っていたが新型コロナウイルス感染症対策の為行えていない。状態に変化があった時には、その都度報告し相談している。現在、施設での看取りは行なっていない。どういふ状況になったら退居になるのかという部分は御家族が知りたいと思っている情報の一つであるので、入居時に契約書以外の文面でもお伝えするようにした。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、すぐに確認できる位置に設置している。火災・地震想定避難訓練の他、離設時想定のある検索訓練や新型コロナウイルス感染症の発生時のマニュアル作成、ゾーニングのシュミレーションも行なっている。コロナの感染情報が薄れる中、第9波到来の話もあるので、シュミレーション等含め定期的に開催し、備えをしておくことも課題と言える。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には職員全員が動けるよう年4回訓練を実施し確認を行っている。新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の方との訓練は行えていないが机上で災害が起こった時の動きを確認する機会を作っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	センター方式を利用し、一人一人の生活歴や生活を理解し、日頃から誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識し、心地よい雰囲気作りに努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい環境作りに努めている。お茶やおやつを選ぶ等、日常生活のちょっとした場面でも自己決定が出来る様に声掛け、対応を行い入居者の自立支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペース、入浴時間、日中の過ごし方等、その方の希望や体調に合わせた対応を心がけている。又、その方の趣味や特技を生かした活動の提供、道具の準備等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで頂いたり、整容が出来る様に鏡、ブラシ等を準備したり、化粧品などの希望があれば家族に依頼し用意して頂いている。髪が伸びたり、散髪の希望があれば家族の了解得て散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や利用者の声を参考に3食手作りしている。季節に合った食材を使ったり、おやつを手作りしたり楽しんでいる。家事についても一人一人出来る事に参加して頂く事で、楽しみや自信、意欲に繋がるよう支援している。新型コロナウイルス感染対策の為、職員は入居者と距離を取って食事をしている。入居者に調理家事に参加していただく際は、マスク、手袋をしてもらう事を基本としているが、手袋をつける事でやりずらさがあり、積極的に食事準備をお願いする事は少ない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老健の管理栄養士が立てた献立で、既往歴、咀嚼や嚥下の状態に合わせた形態で提供している。水分や食事の摂取表を活用し、一人一人の摂取状況を確認している。水分が進まない方には好みの飲み物を提供する等、工夫している。病院から入居になった方はカロリー制限や水分の制限があったりするので、入居前に確認するようにしている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、見守りの中本人より口腔ケアを行って頂いている。必要な方には介助を行ったり、歯科衛生士より助言を頂きその方に合ったケアやケア用品を使用している。歯科受診が必要な方には家族に報告し受診をお願いしたり、歯科往診や口腔ケアのサービスの利用へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄状況を確認し誘導時間を調整したり、自分で出来る事は行って頂く事で残存機能を活かせる支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食前に体操と歌を取り入れて体を動かす機会を作っている。一人一人の排泄状況を把握し、その方に合った方法を取り入れている。又、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら下剤の調節を行っている。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせた時間帯や入浴の有無の確認を行い、体調に合わせた入浴を行っている。温泉のお湯を使用している為「体が温まる」と喜びの声を頂いている。浴槽に入る事が難しい方は、シャワー浴や足浴等を行い、温泉のお湯でかけ湯をして対応しているが、冬場はシャワーだけでは満足されていない方もいるように思われる。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせた休息を取り、生活のリズムを作る事で安心に繋げている。足の浮腫がある方には椅子に挙上して頂いたり工夫している。安眠出来る様に日中の活動を工夫したり、眠剤が必要な方には主治医に相談し調整している。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から届く薬は処方箋通りの薬品か確認し、職員は薬の効能と副作用を理解するよう努めている。薬の変更があれば服薬後に状態観察を行い、主治医に報告したり、薬剤師に相談する様にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や日常会話から生活歴や得意な事の把握に努めている。新型コロナウイルス感染症対策で外出が制限されている中で、屋内での運動や装飾作り、お菓子作り等のレクリエーションを共に行う事で、日常に張り合いや喜び、楽しみを感じられる様支援している。少しずつ外出規制が緩和され、桜や紅葉を見にドライブに行くことが出来た。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、感染対策をしながらではあるが、市内のドライブやグループホーム周辺の散歩をしたり隣の神社へのお参り等行っている。家族との外出も控えて頂いていたが、今後は感染症対策を行いながら緩和していく方向でいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心する方もおり、家族と相談の上で対応している。買い物の希望がある方には一緒に買い物に行き、見守りの中支払いして頂き支援していたが、新型コロナウイルス感染症対策の為現在は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、自ら電話をして家族と話をする事や携帯電話を持っている入居者の方もおり、いつでも会話が出来る環境を作っている。又、年賀状や暑中見舞いのやり取りをしている方もおり、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は天窓から差し込む日差しを遮れるようにすだれを設置したり、温度や湿度を気にかけて快適に過ごせる様に努めている。廊下や居室に日常の風景を撮った写真を飾り、ホールにはレクリエーションで作成した季節感のある制作物を掲示し楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中自席で過ごす方も多く、新聞や本を読んだりテレビを見たり思い思いに過ごされている。希望に合わせて席替えや配置換えを行い、居心地の良い環境作りに努めている。玄関先にはベンチが設置しており、散歩の休憩の場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、今まで使用していた家具や馴染みの私物を持参して頂き、居心地良く過ごせる様になっている。家族との写真やレクリエーションで作成した物を飾ったりして楽しんで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で歩行の妨げにならないような家具の配置の工夫、タンスに衣類の名前を貼り自立を促している。建物内部に危険箇所が無いのか毎月点検を行い改善に努めている。		